

かけはし



発行：峡南教育事務所地域教育支援スタッフ

所在地：南巨摩郡富士川町鵜沢771-2

TEL:0556-22-8154 FAX:0556-22-8144

HPでも御覧になれます。 <https://www.pref.yamanashi.jp/kyoikumk/index.html>

峡南地域教育推進連絡協議会 総会開催

7月9日（火）に身延町総合文化会館にて、峡南地域教育推進連絡協議会（地推協）の総会が開催されました。中村高志会長をはじめ、理事・委員など関係者38名が出席しました。6月に行われた理事会の審議に基づき、平成30年度の事業・決算報告、令和元年度の新役員や事業・予算計画等について、慎重な審議が行われ、承認されました。この地推協は、峡南地域の連携強化や学習機会の充実を図る中で、望ましい教育環境・社会環境づくりを目指すものです。詳細は富士川町教育委員会、峡南教育事務所までお問い合わせください。



中村高志会長

◆ 令和元年度の主な地推協役員

- 会長 中村 高志 氏（富士川町教育委員代表）
- 副会長 佐野 正昭 氏（早川町教育長）
- 副会長 江本 たまき 氏（早川町教育委員代表）
- 副会長 加々美 裕司 氏（峡南高校5校校長代表
増穂商業高等学校長）
- 副会長 望月 直美 氏（峡南PTA協議会会長
富河小学校PTA代表）

かけはし162号の誌面

- p.1 峡南地域教育推進連絡協議会総会
海洋道中参加者決定
- p.2 砂防移動教室（下山小学校）
防犯講演会（上野小学校）
- p.3 PTA学習会（増穂中学校）
『峡南地域の食育』
（市川三郷町食生活改善推進員）
- p.4 親の背中出前講座（増穂中学校）
『峡南地域愛育会の活動』
（市川三郷町愛育連合会）

峡南地域 人権講演会

地推協総会終了後、「人権講演会」が開催されました。講師に山梨学院短期大学 保育科教授・地域連携研究センター長の樋川隆氏をお迎えして、「児童虐待の現状と課題～今、私たちにできること～」と題して御講演頂きました。内容は[次号に掲載します。](#)

フロンティア・アドベンチャー「やまなし少年海洋道中」参加者決定

6月2日に、「やまなし少年海洋道中峡南地区参加内定抽選会及び事務連絡会」が中富総合会館で行われ、峡南地域は、男子6名、女子3名の参加者が内定しました。県の定員は例年50名（原則男女各25名）ですが、応募総数は男子34名、女子17名でした。男子1名の辞退者が出ましたので、抽選会をせずに全員参加することができました。

県の事業「海洋道中」は、今年で32年目を迎えます。これまで、八丈島の方々の支援を受けて、貴重な体験の場を提供し続けてきました。今年は、8月1日～8月9日（8泊9日）の日程で、洋上体験（船上での寝食、クルージング・外洋観察等）や自然体験（キャンプ生活・スノーケリング・サバイバル踏破等）、交流体験（八丈島の小中学生との交流）等、八丈島を満喫します。また、こうした体験活動を通して参加者の友情・連帯・自主の精神を育み、学校や地域のリーダーとしての資質を養います。



内定者への事務連絡会

砂防移動教室 ～ 下山小学校 ～

峡南建設事務所 身延河川砂防管理課

6月17日（月）の3校時に、下山小学校（渡辺勝 校長）で砂防移動教室が行われました。対象者は、5年生17名です。6月は梅雨の時期でもあり、土砂災害防止月間でもあります。峡南建設事務所 身延河川砂防管理課から5名の職員が来校し学習しました。はじめに、身延河川砂防管理課の大久保憲治課長さんから、この教室の趣旨である「土砂災害及び、その防止について理解と関心を深めてもらいたい。」というお話がありま



砂防堰堤を使った実験



簡易雨量計キットの組み立て方説明

した。次に、砂防読本と映像を使いながら砂防の仕事や土砂災害についての説明がありました。

そのあと、川での遊び方を教えてもらったり、土砂災害実験模型を使って、砂防ダム透過型堰堤・不透過型堰堤についての大切さを教えてもらったりしました。最後に、プレゼントされた簡易雨量計キットの組み立て方の説明を受けました。たくさんの学びのある充実した砂防移動教室になりました。

上野小学校・鯉沢警察署 防犯講演会



飯室真奈美氏と ケンちゃん・なっちゃん

上野小学校（佐藤幸彦校長）は鯉沢警察署刑事生活安全課の協力を得て、令和元年6月17日（月）に防災講演会を開催しました。講師は飯室真奈美氏で、東京都青少年・治安対策本部 特命講師を歴任され全国読売防犯協会専任講師他、多種の要職を務めています。50体以上ある腹話術人形を活用して、全国各地で幼児から大人まで様々な年代層を対象に、防犯対策を発信するスペシャリストです。この機会に、飯室氏は腹話術人形2体を使って、「防犯の術」を上野小学校の全校児童に伝えました。

まずは「人間の中に善悪の心があること、悪い心はコントロールする必要があること」を児童に話してから、「よく見る力、よく聞く力、よく考える力」を発揮して、本日の話を聴いてほしいと訴えました。

腹話術人形劇では、主人公のなっちゃんが、知らないお兄さんに「面白いゲームアプリをあげる」と、声をかけられます。その時に、スマートフォンに「子どもGPS追跡アプリ」をインストールされてしまい、つきまとわれて誘拐されそうになる事件が演じられました。児童はこの劇を通じて「知らない人について行かない。自分のスマホをいじらせない。名札や、自宅の鍵など個人情報を見せない。」と教えられていました。

劇の後は、警視庁のHPに掲載中の動画「モンスターシティ 君ならどうする、こんなとき」を視聴しました。動画では下校中の女兒が、同じ小学校に通う児童の保護者を装った男性（犯人）に声をかけられます。「先生との約束に遅れそうだ。学校へ案内して。」と言われ、車で誘拐されてしまいます。児童たちは「どんな理由で誘われても、他人の車に乗ってはいけない。」と肝に銘じている様子でした。

増穂中学校 PTA 学習会 齊藤昇氏語る！

増穂中学校（石井泉校長）は、6月22日にPTA講演会を同校体育館で開催しました。生徒292名、保護者53名・教員30名の計375名が参加しました。講師は増穂中学校卒業生で、元立正大学学長（2016～18）の齊藤昇先生で、「我が人生から学んだこと～後輩たちへ伝える熱い想い～」をテーマに語りました



石井泉校長

講演の中で齊藤先生は、「努力実らず、ということは人の常だが、それでも努力し続けることが大事です。今すぐでなくとも、必ず自分の季節が巡ってくる。」「今こそ何かせねば、というチャンスが来た時、それを掴むのに日頃の努力が生きるのです。」と伝えました。また、「”Serendipity”（幸せを偶然つかむこと）という言葉があり、一生懸命、何かに向けて努力していると、目指した方向とは別の思いがけない可能性の扉が開くことがある。」と自らの体験や実例を交えて伝えました。「自分がハンディを抱えていることが、それ以外の能力の開発を促進することがあり、また、身内に障害や病で苦しむ人がいて、その人を支えることが自分自身を向上させ力を発揮させることもある。」との示唆に富んだ内容に、生徒は聞き入っていました。



市川三郷町「人参クッキー」「黒ごまクッキー」と食改さん



5月25日(土)に市川三郷町のひらしお源氏の館（大門碑林公園）にて、「いちかわみさと子育て支援フェスティバル」が開催されました。食生活改善推進員さんは「手作りおやつ試食コーナー」にて、「簡単手作り人参クッキー・黒ごまクッキー」を麦茶と共に提供しました。会場では栄養豊富で優しい甘みのおやつを、子どもも大人もほおぼっていました。推進員は「手作りおやつは3つの楽しさ（作る、食べる、コミュニケーションをとる）を味わえるので思い出として心に残ります。」と紹介していました。



展示では現代生活での塩分過剰摂取を取り上げました。食事メニューの塩分当てクイズを通して「気づかぬうちに、健康を害する量の塩分を摂取していること。」を周知していました。



加藤幸恵 会長

【市川三郷町の食改さん】

市川三郷町の食生活改善推進員は、3支部(市川・三珠・六郷)に、加藤幸恵会長を含めて106名の会員がいます。「私たちの健康は私たちの手で」をスローガンに、町民に食生活改善と健康づくりの啓発活動を行っています。幼児健診でのおやつ配付や、料理教室の開催等、幅広く活動しています。

《レシピ紹介》 【にんじんクッキー】 【黒ごまクッキー】

◎材料（約20枚分） ホットケーキミックス100g 人参40g バター15g

◎作り方 ①バターを室温で軟らかくしておく。

②皮付き人参を洗い、すりおろす。

③ボウルに①、②、ホットケーキミックスを入れて混ぜ合わせ、ひとまとめにする。

④棒状に伸ばし、20等分に切る。

⑤クッキングシートを敷いた天板に並べ整形する。

⑥150度に予熱したオーブンで15分焼く。

*「人参」を、「黒ごま大さじ2、牛乳大さじ3～4」に代えると黒ごまクッキーが出来ます！



増穂中学校 「11人の親の背中出前講座」



増穂中学校の全学年11教室で、6月22日に、保護者による講座（仕事内容の紹介）が開かれました。これはPTA会員による「親の背中出前講座実行委員会」が企画・実施するもので今年で15年目を迎えます。この企画に込められた願いは、「親が真剣に考え・生きる姿を見て、感じてほしい」「親の思いを伝えたい」「働くことに興味を持ってもらいたい」などです。



今回講師を務めた11人の保護者の職業は、介護士（障害者施設勤務）、訪問看護師、陶芸家、音楽家、鍼灸師、絵本の読み聞かせ、プロキックボクサー、郵便局員、キャンプ場経営者、ファイヤーパフォーマーと多岐に渡っていました。クラスごとに講師1名という講座設定であり、生徒達は級友の保護者から直接学ぶことになります。そのため、各職業をより身近に感じた様子で、積極的に質問していました。まさに、親の背中から多くを学ぶことができる貴重な機会となりました。



愛育会の活動！ いちかわみさと ♪ 子育て支援フェスティバル ♪



青沼親子 市川三郷町愛育連合会会長

立川信子 峡南保健所管内愛育連合会会長

記念手形コーナー

愛育会の歴史：昭和初期は深刻な不景気で、母子は劣悪な環境に置かれていました。昭和8年の皇太子御誕生を記念し、翌年に恩下賜金により母子の保健福祉向上のために「恩賜財団母子愛育会」が設立されました。昭和28年に旧市川大門町の高田・大同地区愛育班が設立され、その後、他の9町地域にも普及しました。平成17年の3町合併に伴い、平成18年に市川三郷町愛育連合会が設立され、現在は160名の愛育班員が市川・高田の2地区を中心に活動しています。これは峡南保健所管内愛育連合会（南部、身延、早川、富士川、市川）のうちの1つで、年間を通して、乳児健診や健康と福祉のつどいへの協力や離乳食教室、ファミリーフリーマーケット開催、愛育だよりの発行など多岐にわたる母子支援の活動を実施しています。また、食生活改善推進員さんと共に地域の健康課題に沿った合同研修会を開いたり、認知症サポーター養成講座を受講したりして、積極的に活動を広げています。

5月25日（土）に大門碑林公園内の平塩源氏の館で、いちかわみさと子育て支援フェスティバルが開催され、愛育会の会員と市川中学校の有志の生徒が活動しました。乳幼児と保護者が一緒に楽しめる4つの企画「ちびっ子写真の展示」、「記念手形コーナー（子どもの手形作り）」、「新聞プール」、「はいはいよちよちコンテスト」が催され、多数の参加者が笑顔で満喫していました。

